

小6国語 出題のねらいと対策

1 漢字の読み書き 93.8%

ねらい：漢字の読み書きの正確さを問う。

分析と対策：はねる部分やはらう部分など、漢字の形を正確に覚えることが大切です。形を正確に覚えて、読み方も確認しましょう。どのような熟語があり、どういった意味なのかを知っていれば、文章を書くときにも適切に使用していくことができます。

2 助詞 95.8%

ねらい：文の意味がつながるように正確な助詞を入れられるかを問う。

分析と対策：文が正しくつながる助詞を入れましょう。実際に助詞を入れてみて、文を読んでみましょう。助詞はいくつもありますので、それぞれの助詞がどういった働きをしているのかを知ること大切です。

3 敬語 57.5%

ねらい：正しい敬語を理解しているかを問う。

分析と対策：敬語を正しく使うためには、だれの行動なのかを確認する必要があります。尊敬語は相手の行動、謙譲語は自分の行動のときに使います。また、謙譲語は自分側の人間が動作主の際にも用いるので注意が必要です。

4 短歌・俳句と鑑賞文の読み取り 70.6%

ねらい：短歌・俳句・鑑賞文の内容を正確に読み取れるかを問う。

分析と対策：Aは「祭」がその地域の人にとってどのような存在なのかを感じ

取れる俳句です。Bは暖かい場所を見つけた猫の姿が詠まれた俳句です。CとDは短歌です。Cは「別れ」について詠んだ歌、Dは生活の苦しさと子への愛情を詠んだ歌です。短歌や俳句は限られた字数の中にさまざまな情景や思いなどがこめられています。鑑賞文もしっかりと読み取り、短歌や俳句が表現していることをおさえていきましょう。体言止め以外の表現技法も確認しておきましょう。

5 論説文の読み取り 49.6%

ねらい：文章の話題をつかみ、各問題に的確に答えられるかを問う。

分析と対策：「A I 囲碁」と「人間」との対決について書かれており、そこから両者の関係性について話が展開しています。(1)は脱文挿入の問題です。(2)は文脈を把握し適切に空所を補う問題、(3)(4)はA I との対戦内容の理解を問う記述問題です。(5)は細部の内容理解を問う記述問題、(6)は接続語の問題、(7)は内容一致の問題です。A I が人間より優れている点と「人ならではの知性」はちがうものだとして筆者は考えています。そしてA I は人間の敵ではなく「心強い味方」であること、そしてA I が発達することによってかえって「人間らしさ」とは何なのかを考えていくきっかけも生まれると述べています。一方で、「味方」といってもA I が発達すると起こる弊害についてもおさえておきましょう。

全体の平均点は69.9点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。